

# Leaf

リーフ

地域連携だより



公益財団法人

ときわ会  
TOKIWA KAISHA, LTD.

常磐病院  
Jyoban Hospital

ときわ会 常磐病院では、  
地域の医療施設・介護施設との  
連携を強化するため、  
当院の最新の医療情報を定期的に  
お知らせしております。

Vol.  
39

## ときわ会 常磐病院 新副院長のご紹介

常磐病院では、2021年10月1日、新たに2名が副院長に着任いたしました。  
今後も皆様とともに地域医療の発展を目指し、密接な医療連携を図ってまいります。  
引き続き、宜しくお願いいたします。

2021年10月30日発行



Associate Director

## 新副院長のご紹介

常磐病院 副院長 兼 看護部長

森屋 浩子

MORIYA Hiroko

Leafをご覧の皆様、こんにちは。この度、副院長兼看護部長に就任しました森屋浩子と申します。皆様におきましては平素より大変お世話になり感謝申し上げます。

出身は秋田県能代市です。いわき市に住み3年目になります。ときわ会に勤務するきっかけは恩師からの紹介と、【一山一家】という理念に出会えたことです。炭鉱の山に関わる全ての人々が家族であるという考えのもとに生まれたと聞き、「同じ職場で働く職員は家族、連帯意識を持って地域の皆様に医療を提供する」という理念が、私の胸の中にスーッと入ってきて、常磐病院で働く決心をしました。

次は当院の看護部、ナース達の紹介です。当院は特定行為研修を終了したナースが8人おります。特定行為とは「診療の補助」であり、ナースが手順書により、実践できる行為でもあります。38行為が定められていますが、当院では「カテーテル類の抜去や人工透析の機械管理、胃ろうや褥そうに関する処置など」の7行為について、ナースによる特定行為が実践できます。この特定行為は医師の勤務負担軽減にも繋がっています。現在は8人のナースが医師と協力しながら特定行為を実践しております。因みに当院は特定行為の研修(実習)施設となっております。いつでも実習が必要な場合は気軽にお声をかけてください。これからも常磐病院をよろしくお願いいたします。

常磐病院 副院長 兼 婦人科部長

玉田 裕

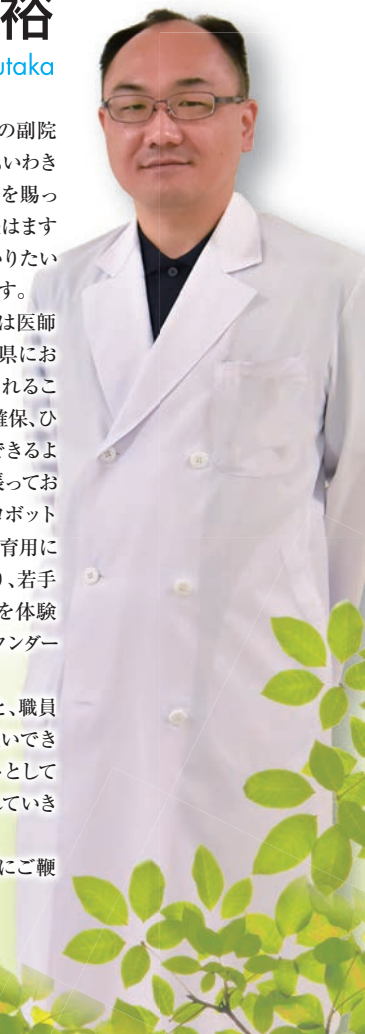
TAMADA Yutaka

このたび、公益財団法人ときわ会 常磐病院の副院長に就任しました玉田 裕と申します。これまでもいわき市医師会の先生方から多大なるご支援ご助力を賜ってまいりましたが、そのご期待に沿えるよう今後はますます当院の診療を充実させるべく頑張ってまいりたいと存じますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

いわき市の医療情勢を鑑みるに喫緊の課題は医師不足にあることは明かです。常磐病院は福島県における臨床研修医教育施設の1つに新たに加えられることになりました。これを契機に研修医(前期)の確保、ひいてはいわき市に勤務する医師数増加に貢献できるように尾崎章彦教育研修センター長を中心に頑張っております。常磐病院の代名詞でもある手術支援ロボット daVinci surgical systemにおいては、研修教育用にデュアル・コンソールを導入しました。これにより、若手医師にも実臨床のロボット支援腹腔鏡下手術を体験できるようになります。近未来の外科系教育スタンダードがまさに始まろうとしております。

元来、当院では「一山一家」のスローガンのもと、職員が長く安心して働けるように福利厚生に力を注いできた経緯もございます。以上をアピール・ポイントとして常磐病院が真の総合病院になれるように尽力していきたいと存じます。

先生方におかれましては今後ともご指導並びにご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。





# 腹腔鏡下手術を支援する ロボットについて

婦人科 玉田 裕(たまだ ゆたか)  
副院長 兼 婦人科部長



## 腹腔鏡下手術を支援するロボットとは？

腹腔鏡下手術を支援するロボット手術とは、8mm径の非常に小さな傷から、腹腔鏡というカメラや鉗子(※組織をつまんだり、剥離展開する医療器具)などを入れ、3次元モニターに映ったおなかの中を見ながら、専用の手術器具を遠隔操作する手術です。おなかの中を観察するには膨らませることが必要ですが、気腹法といって炭酸ガスをおなかの中に入れる方法で行っています。ロボット(ダヴィンチ)を使用しない通常の腹腔鏡下手術は、日本では1990年頃から普及し始めました。現在では器具の進歩と医師の技術の向上により多くの疾患に適応されるようになってきています。そして「Intuitive Surgical社」が開発した「da Vinci surgical system」は、通常の腹腔鏡下手術では困難な鉗子操作を可能にし、より精度の高い手術を可能にした手術支援ロボットです。もちろん、ロボットが勝手に手術してくれるわけではありません。あくまでも術者がロボットを操作して、あたかも開腹手術を行っているかのような感覚で自在に手術ができます。



## 腹腔鏡下手術について

腹腔鏡下手術が適応とされる疾患は次第に多くなってきており、良性の卵巣腫瘍、子宮筋腫、異所性妊娠、子宮内膜症などから悪性腫瘍まで婦人科のほとんどの疾患が対象となっています。ただし、保険適応かどうかは別問題になります(※厚労省の定めた基準で健康保険が適応になったり、自費診療になったりします)。

以前は手術野を確保するため、おなかを大きく切ることが安全な手術の基本とされてきました。腹腔鏡下手術では、傷が小さいため、結果的に術後の痛みが少なく、同じ手術術式であっても早めに退院される方が多いです。しかし、腹腔内の状況によっては、数センチの小切開を加えて腹腔鏡下手術と開腹手術を同時に行ったり、また、既往手術歴の多い方や炎症性腹膜炎のため、おなかの中で腸管などが摘出臓器と強い癒着を生じている状況下では、

術中に開腹手術に変更したりすることもあります。手術で治療をする病状によって腹腔鏡下手術から開腹手術へ移行する率は異なりますが、約0.5~1%の患者さんは術式を開腹手術に変更することがあります。

## 〈常磐病院〉のロボット支援腹腔鏡下手術

一般的には、腹腔鏡下手術を支援するロボットによる手術のほうが通常の腹腔鏡下手術より繊細な手技が可能になり、開腹手術や腹腔鏡下手術と比較すると、出血量も少ないとされています。

腹腔鏡下手術を支援するロボットによる手術ならではの合併症も稀ではありますが報告されています。手術視野が限られていることに起因する、子宮近傍の臓器(膀胱、尿管、直腸などの消化管、大血管など)を損傷する可能性があります。重症子宮内膜症の方の場合は、癒着が直腸や尿管近くに及んでいる可能性があるため、他臓器損傷が発生しやすく細心の注意をはらって手術を行っています。

〈常磐病院〉では、ダヴィンチを使用した腹腔鏡下手術件数が1000件を越えました。これは全国有数の症例数になります。そのほとんどが泌尿器科疾患の手術ですが、婦人科や外科も徐々に増えつつあります。〈常磐病院〉では、最先端の医療を地域の皆様に提供すると同時に、安全性の高い医療を心がけています。



ときわ会常磐病院では、診療科の増加に伴い診察可能な疾患も増えました。  
患者様のご紹介に関しまして、今後もお気軽にお問い合わせくださいますようよろしくお願いします。

## 公益財団法人ときわ会 常磐病院 (院長 新村浩明) 地域医療連携課

窓口受付/毎週月曜日～金曜日 8:30～17:00

〒972-8322 福島県いわき市常磐上湯長谷町上ノ台57番地

TEL:0246-43-7399 / FAX:0246-43-7000